



左、明治3年の銀貨。

右上、明治45年の銀貨(左)と大正3年の銀貨(右)

右下、ブルーフコイン(サクランボのカラーコイン)

第5回アジア大会(青森大会)の記念千円コイン。

私がコインを集めることになりました。その頃の多くの子供がそうだったように、最初は切手の収集に始まり、やがてコインへと幅が広がって行きました。それと父が安田銀行など、趣味の趣味たる所以で、貿易の決済に使われた銀貨を手に、どのような経路を経て、我が手に辿り着いたかなどと考えると、想像が大きく広がります。

上の写真で紹介している銀貨(左)は、明治三年に明治政府が最初に発行した銀貨です。

その後、同じ藩内で王丸彦四郎(粕屋郡多田羅村、享保五年、一七二〇年)が、八尋某(三笠郡、享保十七年、一七三二年)が、お互いに無関係に、灯明用の菜種油にウンカに対する殺虫効果のあることを発見している。

その内に、注油法は徐々に藩内で広がった。亨保十七年(一七三三年)に、日本の多くの地区でウンカの大発生で大飢饉が起つたが、筑前藩ではイネの被害は少なかった。

吉右衛門が発見した注油法は、百年以上後に、藩全体および周辺の諸藩に伝わり、その普及に時間がかかることがわかる。

この動物タンパクを好む典型的なネズミだと思っていたが、さらにその右に出るネズミが、まさにその通りだ。

【問題】ロジックを解くと何が出てくるでしょう。

1	1	1	1	6	1	2	8	1	1					
1	1	1	1	1	1	2	2	6	1	8	1	3	2	2
1	1													
1	1													
1	1													
1	1													
2														
7	1	1												
1	1													
1	1													
1	1	1												
1	1	2												
2	1	2												
2	1	1												
2	3													

★応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014 東京都港区芝2の23の4
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締め切りは平成16年3月末日(当日消印有効)。正解者のなかから抽選で3名様に図書券(3千円分)を差し上げます。

★前号の正解と当選者(順不同)

正解は『すずむし』でした。

当選者: 小菅敏男様、平野恵美子様、島田麗子様。

輝く「コインに魅せられて
アペックス産業㈱
プリンス事業部長
杉山 秀夫

私がコインを集めることはありません。その頃の多くの子供がそうだったように、最初は切手の収集に始まり、やがてコインへと幅が広がつて行きました。それと父が安田銀行など、趣味の趣味たる所以で、貿易の決済に使われた銀貨を手に、どのような経路を経て、我が手に辿り着いたかなどと考えると、想像が大きく広がります。

上の写真で紹介している銀貨(左)は、明治三年に明治政府が最初に発行した銀貨です。右上、明治45年の銀貨(左)と大正3年の銀貨(右)は、明治45年の銀貨(左)と大正3年の銀貨(右)です。右下、ブルーフコイン(サクランボのカラーコイン)は、明治45年の銀貨(左)と大正3年の銀貨(右)です。左、明治3年の銀貨。

入社後、ビルでネズミが急増しネズミとの知恵比べが始まつた。何年かして、ねずみ駆除協議会の委員会に出席するようになると、ネズミ大好き人間の研究者やメーカーの方々とねずみ談義になり、自然に親しみを持つようになつた。旅行先では知らず知らずにネズミを探し、見つけるといつ買つてしまつ。ネクタイ売り場でもネズミの絵柄がないか見ることにしている。ただし、ディズニーのミッキーマウスと干支のネズミは多すぎて最近では買うのをやめて

好き人間の研究者やメーカーの方々とねずみ談義になり、自然に親しみを持つようになつた。旅行先では知らず知らずにネズミを探し、見つけるといつ買つてしまつ。ネクタイ売り場でもネズミの絵柄がないか見ることにしている。ただし、ディズニーのミッキーマウスと干支のネズミは多すぎて最近では買うのをやめて

獲わなを使つていた。入社後、ビルでネズミが急増しネズミとの知恵比べが始まつた。何年かして、ねずみ駆除協議会の委員会に出席するようになると、ネズミ大好き人間の研究者やメーカーの方々とねずみ談義になり、自然に親しみを持つようになつた。旅行先では知らず知らずにネズミを探し、見つけるといつ買つてしまつ。ネクタイ売り場でもネズミの絵柄がないか見ることにしている。ただし、ディズニーのミッキーマウスと干支のネズミは多すぎて最近では買うのをやめて

獲わなを使つていた。

ネズミ三昧オーケストラ
アペックス産業㈱社長
元木 貢



私のコレクション



ウンカ防除用注油法の発見

筑波大学 草野 忠治

吉右衛門の墓は、立屋敷の保食社の隣の長屋、入江吉右衛門(七十七歳)は、寛文十年(一六七〇年)七月にも、ウンカ類の大発生によるイネの被害に悩まされていた。

この時、四夜にわたり夢の中で、当時の鎮守、保食宮の祭神が現れ、鯨油を田の中に注げば、虫は忽ち退散するとのお告げがあった。

この当時、灯火用などに鯨油が用いられた。そこで、自分の三反ばかりの田に鯨油を注いだところ、翌日、ウンカの姿が見えなくなったり、油の殺虫効果を体験した。周辺の農家にこのことを話したが、誰も信用しなかつた。

そして、吉右衛門の存命中(八十七歳で死去)には、この注油法は普及しなかつた。

(筑前国続風土記拾遺、一八二七年)
明治時代の銀貨を持っていたのを見
て興味を持つようになったこともキツ
カケの一つです。

現在の収集の基本は銀貨ですが、
もちろん慶長小判など金貨にも関心
がないわけではありません。実際に桐箱に入った金貨を約五十万円で購入したこともあります。しかし、珍しい小判になると、何百万円、何千萬円のものもザラという世界ですか
ら、欲しくても手が出ないというの
が正直なところです。

コインを集めて何が面白いのかと思われるかも知れませんが、そこが趣味の趣味たる所以で、貿易の決済に使われた銀貨を手に、どのような経路を経て、我が手に辿り着いたかなどと考えると、想像が大きく広がります。

吉右衛門が発見した注油法は、百年以上後に、藩全体および周辺の諸藩に伝わり、その普及に時間がかかることがわかる。



藏富吉右衛門夫妻の墓
(1、妻。2、吉右衛門)



ドブネズミもクマネズミも雑食性で、同じような物を食べていると私は思つていた。そんな先入観を覆したのは、三十年ほど前の三宅島での体験だ。島の畑や森の周りには、ドブネズミとクマネズミがすんでいた。胃の内容物を調べたところ、ドブネズミはミミズやナメクジをたくさん食べ、クマネズミは野生の種子・果実を主に食べていたのである。

これが、私が両種の食性比較に取り組む最初のきっかけとなつた。

最近、フィリピンのルソン島へ行つた。経木材として日本に輸出するため植栽された木が、クマネズミに齧られてしまふので、その原因を明らかにし、防止対策を立てるためである。

この植栽林では、クマネズミと一緒にヤシマハナガネズミが捕れた(写真上)。これは名前の通り鼻が尖ついて、背中に縞模様を持つネズミである。このネズミの胃内にドブネズミと一緒に出るネズミだと矢部辰男

ドブネズミもクマネズミも雑食性で、同じような物を食べていると私は思つていた。そんな先入観を覆したのは、三十年ほど前の三宅島での体験だ。島の畑や森の周りには、ドブネズミとクマネズミがすんでいた。胃の内容物を調べたところ、ドブネズミはミミズやナメクジをたくさん食べ、クマネズミは野生の種子・果実を主に食べていたのである。

これが、私が両種の食性比較に取り組む最初のきっかけとなつた。

最近、フィリピンのルソン島へ行つた。経木材として日本に輸出するため植栽された木が、クマネズミに齧られてしまふので、その原因を明らかにし、防止対策を立てるためである。

世界の様々な文化は神話的な場所を持っている。キリスト教徒やユダヤ教徒はエデンを、古代ギリシャはElysium fieldを、バイキングはValhallaを。だが私には金閣寺がこの世の楽園に思える。ここを訪れた人々がどんなにか安らぎを覚えることであろうか。そんな思いに浸っているときに、騒がしい観光客で我に返つた。今度はだれも邪魔をされない時に一人つきりで三島由紀夫の金閣寺にある修道僧に想いを巡らせたい。寺を燃やそうとは思わないが、こんな強い感銘を与え、感情的反応を起こさせた場所は他には見当たらない。



こそ動物タンパクを好む典型的なネズミだと思っていたが、さらにその右に出るネズミが、まさにその通りだ。

吉右衛門が発見した注油法は、百年以上後に、藩全体および周辺の諸藩に伝わり、その普及に時間がかかることがわかる。

吉右衛門が発見した注油法は、百年以上後に、藩全体および周辺の諸藩に伝わり、その普及に時間がかかることがわかる。